

三鷹の森学園



平成30年度 三鷹の森学園の評価・検証 結果報告

検証項目	1 コミュニティ・スクールの運営	
目標	地域との協働の下に、新しい学園教育目標の具現化を図る。	
取組	<p>○2019年の4つのミッションの実現を通じて、CS委員会のさらなる活性化を図る</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学園の新教育目標の周知とそれに基づく学校評価の改善・実施 2. 学園の魅力を発信する広報活動の工夫・充実 3. 学園サポーター事業の推進・拡充 4. 学園10周年記念事業計画の立案と準備 	
	成果	課題と改善方策
	<p>○年度当初に学園長よりCS役員会に「本年度に達成する4つのミッション」を提案し、CS委員会で共有するとともに、各部会で実践する上でPDCAサイクルにより活発かつ能率的な運営ができた。</p> <p>○学園サポーター制度の導入により、地域人財の活用が効果的に展開され、学習指導の充実に結びついた。</p>	<p>●学園開園10周年の取り組みを推進することを通して、次の10年に向けた学園のビジョンを学校・地域・保護者で共有するとともに、年度ごとの適切なミッションを今後も具体的に提案する。</p> <p>●小・中間の指導の継続性及び連続性を担保し、児童・生徒の学びに向かう力の育成に向け適切な支援を実現する。</p>

検証項目	2 小・中一貫教育校としての教育活動	
目標	新しい学園教育目標に示す資質・能力の育成のために、学園として一体感のある教育活動を展開する。	
取組	<p>○新学習指導要領の趣旨を踏まえ、移行措置の適正な実施を行う中で、新たな学園の教育目標にある「これからの社会をたくましく、創造的に切り拓いていける資質・能力」等の育成を図るために、三鷹市教育ビジョン2022に示された「人間力」と「社会力」を兼ね備えた子どもの育成を目指す。</p>	
	成果	課題と改善方策
	<p>○「資質・能力」ベースで改定した学園教育目標を通して、学園の教育理念をより明確に示すことができた。</p> <p>○平成29年度からの2年間にわたる学園研究の成果として、新しい学習指導要領の趣旨や、学習指導の在り方について理解を深めることができた。</p>	<p>●今後は「カリキュラム・マネジメント」の視点で、学園の児童・生徒に育む「資質・能力」をより具体化するとともに、学園版小・中一貫カリキュラムの作成を通して、9年間の教科横断的な指導の在り方を明らかにする。</p> <p>●「健全育成」と「教育支援」の充実に目的とした小・中間の情報交換・情報共有の機会を設けるとともに、その成果を各校の指導に反映・還元する仕組みを整備する。</p>

検証項目	3 (知) 確かな学力	
目標	主体的・対話的で深い学びの視点から学習指導の改善・充実を図り、9年間の確かな学びを実現する。	
取組	<p>○「社会の変化に対応し、自ら学び、知識・技能等を主体的に更新する力」の育成に向け、9年間を通じて育成を目指す「資質・能力」を明らかにするとともに、Ⅰ期・Ⅱ期・Ⅲ期の有効な指導法の改善を図りながら、主体的で対話的で深い学びを実現させる。</p> <p>○「自ら問題を発見し、筋道立てて考えたり、試行錯誤したりしながら問題を解決する力」の育成に向け、「小中一貫・三位一体アクティブラーニング」を活用し、「6つの学習習慣（三鷹の森学園スタンダード）」に示された学びに関する能力・態度の育成を目指す。また、家庭学習を習慣化させるとともに補充学習を拡充させ、各学年の基礎的・基本的な学習内容の定着を図る。</p>	
	成果	課題と改善方策
	<p>○ 学力調査等の結果を基にカリキュラムの指針を作成し、学び方を身につけさせる指導を行うことを通して、子供が自分の考えをもち、高め合うことができる授業スタイルが浸透しつつある。</p> <p>○ 支援が必要な子供については、個別指導計画を作成したり、授業や教室環境整備にユニバーサルデザインを用いたりするなど、指導の充実を図った。</p> <p>○ 家庭学習の取り組みは小学校段階では子供の自己評価も高く、意欲的に取り組む状況が表れた。</p>	<p>● 小・中一貫カリキュラムの完成を受けて、学園としてのカリキュラムを作成することが次年度の重点となる。作成に当たっては、平成30年4月に改定した学園教育目標に示した「資質・能力」を教科横断的に育成するカリキュラムマネジメントの視点を踏まえる必要がある。このことから、平成31年度より2年間の指定を受けて三鷹市教育研究協力校として研究に取り組む。</p> <p>● 「小・中一貫、三位一体で取り組むアクティブラーニング」に掲げた「6つの学習習慣」の定着、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善という継続的な課題についても、平成31・32年度の研究の中に位置付けて取り組むものとする。</p>

検証項目	4 (徳) 豊かな人間性	
目標	あらゆる教育活動を通して、他者との関わりを大切にし、協働して課題解決に取り組もうとする意欲を育む。	
取組	<p>○「多様な人々との対話や協働を通じて、新たな価値やよりよい社会を創造していく力」を育成するために、地域人財や保護者などによる学習サポーターを活用した教育活動を積極的に進め、「社会に開かれた教育課程」を計画し、地域ぐるみで教育を充実させ「人間力」「社会力」を育成する。</p> <p>○「学園生活指導計画」に基づいた一貫した指導方針のもとに、人や社会とのかかわる活動や、社会貢献活動等を通して自己有用感を高め、「生きる力」の育成を進める。また、規範意識を系統立てて育成するとともに、関連機関と連携した教育支援の体制を整えていく。</p>	
	成果	課題と改善方策
	<p>○ 児童・生徒会活動を中心とした主体的・自主的な活動が徐々に定着しており、「児童会・生徒会交流会」「いじめ見逃し0宣言の作成」等の取り組みが実施された。</p> <p>○ 学園サポーターや地域協力者など多くの人財の活用が図られ、子供たちに他者とのかかわりをもつ様々な機会を提供することができた。</p> <p>○ 学園の方針に基づいた「生きる力」の育成のために、教員間で小・中の指導の一貫性を充実させようとする意識が表れており、次年度の具体的な計画に結びついた。</p>	<p>● 小・中の情報共有と連携を強化し、段差のない指導を実現するために、年度半ばでの子供たちの状況を確認し、それに基づく指導方針を検討できる機会を次年度からもつこととした。こうした、取り組みが子供たちの健全育成を効果的に後押しできるものとなるよう、充実を図る必要がある。</p> <p>● 「道徳」の評価、子供たちの関係づくりのためのグループエンカウンター、Q-Uテストなど、小学校で先行実施していることや各校で工夫している指導法などがある。これらも「教育資源」とらえて共有と活用を図り、学園の子供たちの豊かな人間性を育む取り組みを推進できるようにする。</p>

検証項目	5 (体) 健康・体力	
目標	自らの健康・体力の保持・増進に努め、望ましい生活習慣を身に付けた児童・生徒を育成する。	
取組	<p>○体力調査の結果を考察し、学園カリキュラムに基づいたカリキュラム・マネジメントを行い、中学校教諭による体育の乗り入れ授業を6年生に積極的に実施し、体育授業を更に充実させる。</p> <p>○各教科、道徳、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動並びに教育課程外である部活動等を含む全教育活動の中で、「オリンピック・パラリンピック教育」の取り組みを年間35時間程度実施する。</p>	
	成果	課題と改善方策
	<p>○健康づくり・体力向上にかかわる取り組み計画を各校で策定し、それに基づいて取り組みを推進することができる。特に、中学校段階では体力・運動能力調査の結果が一つの学年を除いて男女とも前年比で向上し、との平均を上回った。</p> <p>○体育の乗り入れ授業については中学校教員の専門性を生かして小学校での指導の充実を図るためのスタイルが定着している。</p> <p>○オリパラ教育については、各校とも年間計画に沿って適切に実施することができる。</p>	<p>●学園全体として体力・運動能力調査の結果が上向きつつあることから、乗り入れ授業のより効果的な活用・展開方法を検討するなど、小・中一貫校だからこそ取り組むことのできる体力・運動能力向上の取り組みをさらに推進するための工夫が必要である。</p> <p>●健康・体力の保持増進という観点から夏季の熱中症予防について対応方針を共有するなど、安心・安全に子供たちが活動できるような仕組みづくり・体制づくりを家庭とも連携しながら考えなければならぬ。</p>

検証項目	6 特色ある教育活動	
目標	地域の人財や教育資源を生かした取り組みを通して、学園生としての誇りや、将来への希望をもった児童・生徒を育成する。	
取組	<p>○コミュニティ・スクール委員会での報告、承認並びに協議の活性化を通して、学園運営の充実を図るとともに、小・中一貫教育校としての一体感をもたせ、地域を愛し、環境や文化を継承し発展させようとする児童・生徒を育成する。</p> <p>○三鷹市いじめ防止対策推進条例等に基づき、改訂版「ICT(情報)教育」カリキュラム、「SNS東京ルール」を踏まえた「SNS三鷹の森ルール」の徹底により、「いじめや体罰のない学校」を目指す。</p> <p>○学園の教職員共通の理解の下に保護者・地域と一体となって「学園あいさつ運動」を実施する。</p>	
	成果	課題と改善方策
	<p>○9回のコミュニティ・スクール委員会及び部会で報告、承認、協議がなされ、安定した学園運営をすることができた。学校支援ボランティア参加実績も1517名となり、人材活用が進んでいる。地域人材活用の重要度については90%、活用の実現度も81%の保護者に肯定的に評価されており、成果を上げている。</p> <p>○いじめ、体罰等については、計画通りアンケートなどを実施し、学園として適切に対応する体制が作られ、有効に働かせることができている。</p> <p>・計画通り保護者・地域と一体となったあいさつ運動に取り組み、中学生のあいさつが増えるなど、運動の成果が上がった。</p>	<p>●地域の人材や教育資源の活用を引き続き進めていく。そのために学園サポーターの数を増やし、教員に対しては活用を呼び掛けていく。</p> <p>●いじめや体罰の根絶を目指す。そのために常に危機意識をもってアンケートや面談、関係者との連携、日常の児童・生徒の関係性を含めた観察を確実に行っていく。</p> <p>・教師に対するあいさつはできるようになってきている。来校者に対するあいさつや自分からするあいさつをさらに徹底する。そのために指導がマンネリにならないよう工夫していく。</p>

検証項目	7 学校教育の質の維持向上を目指した学校の働き方改革	
目標	教職員の働き方の改善・適正化を通して、学園の教育活動の充実・向上に努める。	
取組	<p>○平日は、児童下校後3時間を目安とした退勤に努め、1日当たりの在校時間を11時間以内を目標とする。</p> <p>○週休日である土曜日、日曜日については、連続して業務に従事することがないように、どちらか一方は必ず休養できるようにする。</p> <p>○各自がライフ・ワーク・バランスを考え「ノー残業デー」を設定し、定時退勤に努める。</p>	
	成果	課題と改善方策
	<p>○平日の退勤時刻は18時～19時前後の職員が多く、一日当たりの在校時間を11時間程度とすることができた。</p> <p>○週休日である土曜日曜の出勤に関してもどちらか一方は休養できる体制となっているといえる。</p> <p>・ノー残業デーの設定に関しては、いまひとつ徹底せず、実施は十分ではなかったが、教員の意識の改革には一定の成果があった。</p>	<p>●職務に軽重があり、退勤時刻が遅くなる職員が数名いる。業務の効率化や分散化が必要である。また、勤務時間の縮減に頓着しない職員も見受けられるので、引き続きライフワークバランスについての意識を高めていく。</p> <p>●地域行事などが重なる場合、たまに土日とも出勤する職員がみられる。職員同士で分担する、無理に参加しない、主催者に理解を求めていく、などの対応をしていく。</p> <p>●ノー残業デーなど、働き方改革を強く意識できるモデル事業に引き続き取り組んでいく。</p>

平成30年度 三鷹の森学園の評価・検証結果のまとめ

(1) から (7) の検証結果を踏まえて	1 「小・中一貫教育」及び「コミュニティ・スクール」の取組において特によい成果が得られたこと
	<p>○ 学園サポーター制度の導入により、地域人財の活用が効果的に展開され、学習指導の充実に結びついた。</p> <p>○ 「資質・能力」ベースで改定した学園教育目標を通して、学園の教育理念をより明確に示すことができた。</p> <p>○ 平成29年度からの2年間にわたる学園研究の成果として、新しい学習指導要領の趣旨や、学習指導の在り方について理解を深めることができた。</p>
	2 今年度に明らかになった課題のうち、特に次年度の重点とすること
	<p>● 学園開園10周年の取り組みを推進することを通して、次の10年に向けた学園のビジョンを学校・地域・保護者で共有する。</p> <p>● 小・中一貫教育の質の向上を図り、教育活動のさらなる充実を実現するために、三鷹市研究協力校として2年間の研究を推進する。</p> <p>● 小・中間の指導の継続性及び連続性を担保し、児童・生徒の健全育成を図るとともに、適切な支援を実現する。</p>
	3 「2」の重点課題を解決するための改善策
	<p>◎ CS委員会及び地域協力者によって組織した10周年記念事業実行委員会と3校が連携・協力した取り組みを推進することで、学園の10年間の歩みと成果を共有するとともに、児童・生徒に学園生としての一体感を育む。</p> <p>◎ 2年間の研究テーマとして「カリキュラム・マネジメント」を取り上げ、学園の児童・生徒に育む「資質・能力」をより具体化するとともに、学園版小・中一貫カリキュラムの作成を通して、9年間の教科横断的な指導の在り方を明らかにする。</p> <p>◎ 「健全育成」と「教育支援」の充実を目的とした小・中間の情報交換・情報共有の機会を設けるとともに、その成果を各校の指導に反映・還元する仕組みを整備する。</p>